

CAGLIERO¹¹

カリエロ 11



第8号

～ サレジオ会宣教ニュース ～

2009年8月11日

CETERA TOLLE：宣教師になるため、チェコスロバキアを脱出！

1984年8月21日の夜でした。若いサレジオ会員であった私は、ユーゴスラビア側からイタリアン・アルプスを越えました。それは私の宣教師の召命を決定づける冒険の物語です。それから25年たった今、その実りを皆さんと分かち合うことができます。

共産主義のチェコスロバキアからイタリアへ脱出する計画は、2年がかりで立てられました。1982年、宣教師の召命について語られたボナノッテは、私の人生を変えてしまいました。その夜、私は眠れませんでした。「過去25年間、プラハ管区から宣教師が一人も出ていないとは、何と残念なことでしょうか！」このごく単純な挑戦を投げかけられた瞬間、私は悟りました。宣教師になるために必要な基本的で不可欠な3つの条件、(1)健康、(2)言葉を習得する能力、(3)人々と信仰を分かち合う情熱を、主が私に下さったことを理解したのです。

1984年の8月、プラハからアドリア海沿岸のイストリア（当時はユーゴスラビア）まで、旅行者として2日間バスに揺られ、山のほうへ、イタリア国境に向かって1日歩き、サレジオ協力者会員に伴われて夜間、山を登り、トリエステを目指して山脈を越えました。トリエステは、私が初めて出会う正式に設立された支部でした。

私はパスポートもなく、小さなかばん、数枚の夏服、たった一冊の本、新約聖書だけを持ち、安全のため、両親や友人、ほかのサレジオ会員にさえ何も告げずに、すべてを後にしたのでした。それは当時の中央ヨーロッパ地域顧問ロジャー・ヴァン・セヴェレン神父（1984年に帰天）と何人かのスロベニア、イタリアのサレジオ会員によって準備された旅でした。

すべてを後にしたのはなぜでしょうか。宣教へ赴くためです。人々に福音を運ぶ道具とするために主が私を準備されたことを、私は理解したのです。アフリカに行くという当初の夢は、長上たちによって韓国に変更になりましたが、すべての人にとってすべてとなるために、すべてを後にするという人生の方向性は変わりませんでした。

過去25年のあいだ、私がますます理解を深めたことがあります。イタリアで生活しはじめた最初のころ、それから韓国で宣教師として歩みはじめたころ、努力のエネルギー、困難の中での熱意、使徒職への情熱は、私にとっては難しいことではありませんでした。後になって、はじめて理解できました。すべてを後にすること、Cetera tolle は、若者や会員に私を近づけさせ、忍耐強く、堅忍しながら共に歩めるようにしてくれたのです。何人かのすばらしい宣教師たちの話をうかがったとき、共通するものを感じました。「宣教師としてすごした75年間、Cetera tolle について深く気にとめたことはない。」宣教師の生活、全面的な自己贈与、喜びにあふれて「地の果てまで」も若者に福音を伝えること、それは宣教師を助け、疲労に耐えさせ、多くの犠牲を忘れさせてくれます。

宣教へと私を呼んでくださったことを神に感謝します。私は総長から宣教の十字架を受けたこともなければ、新宣教師のためのコースを受けたこともありませんが、呼びかけへの全面的従順は、自分を完全にイエスに捧げる力を与えてくれる、日々の賜物です。すべてはイエスのために、イエスを皆に！

第26回総会で再選された後の最初のボナノッテで、総長はサレジオ会の将来を保証する3つの条件について私たちと分かち合ってくれました。第一の条件は、宣教の使命に無条件に応える心です。数多くのサレジオ会員が、喜びにあふれて Cetera tolle を体験することができるよう、主に願いましょう！

宣教顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父



本号の内容

- ・ 宣教顧問より
- ・ バングラデシュ：サレジオの新たな前線
- ・ サレジオ会の宣教の意向 2009年8月
- ・ 宣教ニュース

バングラデシュ：サレジオの新たな前線

バングラデシュ。イスラム教国（89.7%）としては、報道・政治的自由のある、数少ない民主主義の国の一つ。改宗も可能で、キリスト教徒への迫害もなく、宣教師は自由に活動できます。16、17世紀にポルトガル人からキリスト教が伝えられました。現在キリスト教徒の大部分はアニミズムから改宗した先住民の人々です。今日、バングラデシュのカトリックは30万人、人口の0.3%です。バングラデシュ人の司教たちが司牧する6つの教区、100ほどの小教区があり、各教会に300人から500人ほどの求道者がいます。サレジオ会はバングラデシュが1947年にインドから分離独立する以前、同国で働いていました。私たちの小教区や施設は、カルカッタ管区、そして当時のクリシュナガール教区の下にありました。分離独立後、多くのキリスト教徒はインドに逃れ、カルカッタ近郊に住みつきました。バングラデシュ生まれのサレジオ会員がたくさんいるのはそのためです。クリシュナガールのジョセフ・ゴメス司教、カルカッタのルカス・シルカール大司教はバングラデシュ生まれです。今年、総長は、新たにサレジオ会の拠点を築くため、前宣教師顧問フランシス・アレンチェリー神父をバングラデシュに派遣しました。

アレンチェリー神父は、次のように語っています。「私の宣教地、バングラデシュにとうとう着きました。副管区長ジョセフ・パンパディール神父と共に、3月24日の夜中近くにミーメンシングの司教館に到着しました。26日午前には聖香油のミサもあり、教区の司祭たちと共に祈り、一日を過ごせたことは、この教区での奉仕の仕事を始めようというスタートになりました。

26日の午後、司教様とラニコンの主任司祭は、私たちをウトレイルへ案内してくれました。ラニコンはサレジオ会の最初の拠点を始める小教区であり、ウトレイルはその最初の現場でした。ウトレイルに到着すると、私たちは集まった村人から温かい歓迎を受けました。人々はサレジオ会員が自分たちのところに来てくれたことに満足しているようでした。

歓迎式の後、私たちは、使徒職のために活かすことのできるような場所を見て回り、さまざまな可能性を探りました。まず考えているのは、ウトレイルに共同体の家を用意すること、そして活動のために土地を買うことです。聖週間をウトレイルで過ごしたいと思っています。できるだけ多くの人に会う機会になるでしょう。主任司祭によれば、私たちに任された小教区の18の村に、約3000人の信徒がいるはずとのことでした。

司教様や神父様たちは私たちを歓迎し、大きな期待をかけてくださっています。神の助けによって、ドン・ボスコの子らは彼らを落胆させないだろうと、私は確信しています。

今年の12月18日までに、私たちの会の創立150周年を記念して、この新しいサレジオの拠点を荘厳に開設できればと願っています。

*austraLasia 2389 より

宣教ニュース

2009年の新たな前線:バングラデシュのウトレイル小教区 (INC、フランシス・アレンチェリー神父)、ニュージーランドのオークランド (AUL、ジェームズ・アダイヤディール神父)、グアム島の学校 (FIN、チート・ディマラン神父) で、サレジオ会員が働きはじめました。今年、サレジオ会員が働く国の数は133になりました!

今年、96人が宣教師になることを総長に志願しています。ローマでの研修とドン・ボスコゆかりの地への巡礼の後、34人が9月27日に派遣され (ヨーロッパ:8、アフリカ:10、アメリカ大陸:10、アジア:4、オセアニア:2)、62人は自国で初期養成を続けたり、出身管区内の宣教地で実地体験による識別の期間を過ごしたりすることになります。

2009年8月 サレジオ会の宣教の意向

《南アジアのすべての人の信教の自由のために。サレジオ会員が教育事業において、神の感覚と信教の自由を大切にすることを若者のうちに育むことができますように。》

南アジアの国々 (インド、パキスタン、ネパール、バングラデシュ、スリランカ) では、政治的な理由から、宗教、カースト、言語、民族によって人々が分断されています。教育もそのために利用されています。南アジアにおける信教の自由はここ2年のあいだ深刻な攻撃にさらされ、インドでは多くのキリスト者が迫害に苦しんでいます。教育を通して、すべての人を大切にする普遍的な姿勢を育むことによって、はじめて狂信的な原理主義に立ち向かうことができます。そのため、サレジオ会は分裂に反対し、中央と地方の政府、また文化の世界に影響を与え、さまざまな宗教・民族グループの間の友情、対話、協力を促進しようとしています。